

精神科臨床研修プログラム（川室記念病院）

精神科研修の到達目標

精神保健医療福祉を必要とする患者に対して全人的対応をするため、一般身体科の診療においても遭遇することが多い精神症状や精神疾患について学び、適切な診断や対応ができる能力を習得する。

精神科研修中に身につけるべき資質・能力【技能・問題解決・解釈・態度】

1. 患者に対して支持的（傾聴・共感・受容）な対応ができ、良好な医師患者関係を作ることができる。（態度）
2. 適切な精神科的病歴を聴取することができる。（技能）
3. 患者の精神症状や状態像を把握し、診断や治療計画を立てることができる。（技能、解釈、問題解決）
4. 適切な精神医学用語を用いて診療録に記載することができる。（技能、問題解決、態度）
5. 精神保健福祉法を理解し、患者の人権に配慮した対応や治療ができる。（技能、問題解決、態度）
6. 向精神薬についての基本的な知識を学び、適切な薬物療法ができる。（技能、問題解決）
7. 種々の心理検査や心理療法、作業療法について理解する。
8. 脳波検査や頭部形態画像検査の読影ができる。（技能、解釈）
9. 看護師や臨床心理士、精神保健福祉士などの精神科スタッフと連携し、精神科におけるチーム医療について理解する。（問題解決、態度）
10. 一般身体科との連携について経験する（精神科リエゾン）。（問題解決、態度）
11. 精神疾患を患う患者の社会復帰について、社会資源を活用し、関係機関と連携を図ることができる。（問題解決、態度）

研修方略

On the job training（On - JT）

1. 外来診療における初診患者の病歴聴取を行い、指導医の診察に陪席する。
2. 指導医と共に入院患者の主治医あるいは副主治医として診察を担当し、診療録の記載や薬物療法などを行う。
3. カンファレンスに参加し、初診患者や担当入院患者の病状や治療方針などを説明し共有を図る。
4. クルズスを受講し、基本的な精神医学について学ぶ。

5. 精神科スタッフと共に心理社会的治療に参加する。
6. 精神科デイケアや就労移行支援事業所などの社会復帰施設を見学する。
7. 院内で行なわれる勉強会に参加する。

Off the job training (Off - JT)

1. 院外で行われる精神科関連の研究会などに参加する。

週間予定表

	月	火	水	木	金	不定期
午前	申送り 外来診療	申送り 外来診療	申送り 外来診療	申送り 外来診療	申送り 外来診療	作業療法 デイケア 訪問看護
午後	病棟診療 クルーズ 検討会	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	心理検査

評価

研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

1. 週間予定表に示した On-JT の様々な経験の場で、到達目標の達成状況について、指導医や指導者による形成的評価とフィードバックが行われる。
2. One-Minute Preceptor (OMP)、1日の振り返り、Significant Event Analysis (SEA) が中心的なフィードバックの機会となるが、それ以外の場でも、指導医や指導者による形成的評価とフィードバックが行われる（指導医による診療録のチェックなど）。
3. 1日の振り返り、SEA は、研修医自身の振り返り（省察）としても用いられる。

研修後の評価

研修医に対する形成的評価

1. 研修終了後に PG-EPOC に研修医が入力した自己評価を元に、指導医や精神科スタッフが評価表に記載をする。
2. 評価表を集約して、研修責任者が研修医評価表Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに達成度評価を記載する。
3. 経験すべき症候、疾病・病態について、研修医が提出した病歴要約を基に、指導医や研修責任者は十分な経験がなされたか判断し、承認あるいは修正を求める。
4. PG-EPOC 内容、評価表、病歴要約はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
5. 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

指導医、研修プログラムに対する形成的評価

1. 研修終了後に、研修医と精神科スタッフは指導医に対する評価表を記入する。
2. 評価表はプログラム責任者に提出され、臨床研修管理委員会などの場でフィードバックが行われ、指導医の指導状況と研修プログラムの改善のために活用される。

総括的評価

2年間の研修終了時に基幹施設の臨床研修管理委員会が終了判定の総括的評価を行う。

精神科が学修の場として適している、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

(医師臨床研修指導ガイドラインより)

経験すべき症候

もの忘れ、抑うつ、興奮・せん妄

経験すべき疾病・病態

認知症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

指導体制

研修責任者 永井 達哉

指導医 永井 達哉